

日本政治学会 会報

The JPSA News

NO. 10

December 1985

IPSA 第13回世界大会に出席して

内 田 満

世界政治学会(IPSA)第13回世界大会は、1985年7月15日から20日まで、パリの政治学研究所で開かれたが、日本政治学会からは、武者小路公秀、有賀弘両会員と私が、代表あるいは代表オルタネイトの資格で派遣され、研究報告セッションおよび理事会に出席した。世界大会では、研究報告セッションと同時に、会長および常任理事の選出や学会運営に関する事項の協議をおこなうための理事会が招集されることになっており、日本政治学会は、この理事会に理事2人とオルタネイト1人の出席権をもっているのである。

ところで、なによりもまず、今回の世界大会を特徴づけたのは、参加者の大規模さと研究報告セッションの数の多さであろう。この大会で企画委員会の副委員長をつとめたポーランドのJ.ヴィアトル教授は、1949年にIPSAが発足したとき、これに参会したのは4か国からの40人であったのに対し、今回の参加者は、40か国からの1400人に達し、いままでの最大規模の大会になったと報告したが、実際に、7月15日夕の開会式では、会場のソルボンヌ大学大講堂が、同伴者を伴って出席した参加者であふれる観があった。ちなみに、30年前の第3回世界大会に出席された臘山政道氏は、このときの参加者数を約250人と報告しておられる(年報政治学1956)。

また、今回の大会のメイン・テーマは、「変貌する国家とその国内社会および国際社会との相互作用」であったが、これが、さらに「最近の政治理論における国家と政府」「政府装置の機能と構造の変化」「比較公共政策と政府活動」「地球的諸問題—国家への挑戦」という4つのサブテーマに分かれ、合計およそ70の研究報告セッションで、250人にのぼる各国の政治学者が、研究報告をおこなった。しかも、IPSAの研究委員会や研究グループなどの企画によるプログラムも同時に進められ、結局、全部で200を数える研究報告セッションが開かれたのである。

なお、今回の大会には、日本政治学会関係では、

報告者として参加した福田敏一、関寛治、加藤哲郎、曾根泰教、樺島郁夫の各会員と司会者として参加した村松岐夫会員を含め、約15人が出席した。

今回の大会で特筆すべきもう1つの点は、1982年から3年間IPSA副会長をつとめてきた武者小路会員が、IPSA会長に選出されたことであろう。会長を選出する理事会は、7月17日午前8時30分から開かれたが、対立候補がなく、無投票で拍手によって選出された。IPSA会長としては、第13代目であるが、アジアから会長が選ばれたのは、はじめてのことである。

研究報告セッションにおいて目立ったのは、今回の世界大会のメイン・テーマおよびサブテーマからも明らかのように、1つは、国家論の復活にほかならない。企画委員会の委員長をつとめたノルウェーのF. シェルバーグ教授は、これを「制度論的視点への回帰」と呼んでいたが、ここで論議の基点となったのは、「2つの異なった、しかも競争的な世界システムの台頭とかつての植民地諸国の民族的解放の結果としての社会経済的・政治的秩序の多様性の増大」「強制と説得のテクノロジーを含む、テクノロジーのインパクト」などを背景とした国家の変容であった。

今回の世界大会の研究報告セッションのもう1つの特色は、政策過程研究が、中心的なテーマの1つとしてとりあげられたことであろう。1960年代後半からのこの分野の研究の急速な発展に照らして、これまでの研究成果の「在庫調べ」と問題点の確認が、今後の研究の推進に不可欠の作業であるとする認識を、企画委員会が共有していたのである。

あらゆる意味で、今回の世界大会は、今日の「国際的政治学コミュニティ」の断面を浮きぼりにしていたといえよう。そして、「IPSAは、生きている」というのが、私の総合的な印象であった。

訂正

会報第9号巻頭に掲載した中村哲会員の「政治の場」の第1行の〈日本の政治〉は、〈日本の政治学〉の誤りでした。おわびいたします。

学 会 ニ ュ ー ス

松下圭一会員

次期理事長に選出される

10月6日、東京大学で開かれた次期理事会において松下圭一次期理事が満場一致で次期理事長に選出された。松下次期理事は、来年度の総会終了後から2年間、理事長を務めることになる。また、松下次期理事長は、成澤 光会員（法政大学）を次期常務理事に指名し、同日開かれた臨時総会で承認を得た。

これに先立ち、次期理事のうち会員からの直接選挙によって選ばれる候補者（公選理事候補者）を決める選挙が行われ、6月30日にしめきられた。選挙管理委員会から発表された今回の選挙の主なデータは次の通りである。

1. 有権者総数 949名
2. 投票者総数 335名（投票率35%）
3. 無効投票封筒数 4通
4. 有効投票用紙数 331通
5. 30票以上の得票者数 25名
6. 上位第20位の得票数 31票
7. 第1位の得票数 94票

また、9月14日、学士会館で開かれた次期公選理事候補者による推薦理事候補者選考委員会の結果をふまえ、理事長が各候補者と交渉した結果、新たに15名の会員を推薦理事候補者として総会の承認を求めることに決まり、先の公選理事候補者の中、辞退者1名（高島通敏会員）と選挙後に亡くなられた小林丈児会員を除く18名と併せて、10月5日の総会で次期理事（1986.10—1988.10）として承認された。次期理事に決まった会員の氏名は、以下の通りである。

阿 部 齊（放送大学）
 阿 部 四 郎（東北大学）
 ☆有 賀 弘（東京大学）
 ☆飯 坂 良 明（学習院大学）
 井 田 輝 敏（北九州大学）
 ☆今 中 比呂志（広島大学）
 犬 童 一 男（神戸大学）
 ☆内 田 満（早稲田大学）
 ☆内 山 秀 夫（慶応義塾大学）
 大 原 光 憲（中央大学）
 ☆岡 本 宏（熊本大学）
 沖 野 安 春（新潟大学）
 ☆木 坂 順一郎（龍谷大学）
 阪 野 巨（大阪大学）
 ☆坂 本 義 和（東京大学）

☆佐々木 毅（東京大学）
 島 袋 邦（琉球大学）
 清 水 昭 典（北見工業大学）
 ☆田 口 富久治（名古屋大学）
 ☆田 中 浩（一橋大学）
 中 山 政 夫（日本大学）
 西 尾 孝 明（明治大学）
 ☆福 井 英 雄（立命館大学）
 ☆堀 江 湛（慶応義塾大学）
 前 田 繁 一（松山商科大学）
 ☆松 下 圭 一（法政大学）
 三 沢 潤 生（埼玉大学）
 ☆三 谷 太一郎（東京大学）
 ☆三 宅 一 郎（同志社大学）
 村 松 岐 夫（京都大学）
 森 田 勉（三重大学）
 ☆安 世 舟（大東文化大学）
 ☆山 口 定（大阪市立大学） 以 上

☆印は公選理事

また、山下重一監事の任期満了にともない、木村雅昭会員（京都大学）が新監事として総会で承認された。

86年度企画委員決まる

委 員 長 山 川 雄 巳（関西大学）
 委 員 五百旗頭 真（神戸大学）
 " 猪 口 孝（東京大学）
 " 伊 藤 光 利（名古屋市立大学）
 " 石 田 徹（龍谷大学）
 " 内 山 秀 夫（慶応義塾大学）
 " 梅 津 実（同志社大学）
 " 鴨 武 彦（早稲田大学）
 " 川 人 貞 史（北海道大学）
 " 佐々木 毅（東京大学）
 " 田 口 晃（北海道大学）
 " 土 倉 莞 爾（関西大学）
 " 坂 野 潤 市（東京大学）
 " 三 宅 一 郎（同志社大学）
 " 宮 沢 健（近畿大学）
 " 森 脇 俊 雅（関西学院大学）
 " 藪 野 祐 三（北九州大学）
 " 山 田 浩（広島大学）
 " 依 田 博（神戸大学）

学 会 ニ ュ ー ス

86年度年報委員決まる

委員長	矢野 暢(京都大学)
委員	小田 英郎(慶応義塾大学)
"	片山 裕(京都大学)
"	木村 雅昭(京都大学)
"	白石 隆(東京大学)
"	高木 誠一郎(埼玉大学)
"	土屋 健治(京都大学)
"	林 武(アジア経済研究所)
"	的場 敏博(京都大学)
"	山影 進(東京大学)
"	五百旗頭 真(神戸大学)

85年度文献委員決まる

委員長	三谷 太一郎(東京大学)
委員	西尾 勝(東京大学)
"	渡辺 浩(東京大学)
"	五十嵐 武士(東京大学)
"	坂井 雄吉(東京大学)
"	馬場 康雄(東京大学)
"	吉岡 知哉(立教大学)
"	茅野 修(東京大学)
"	藤原 焯一(東京大学)
"	出岡 直也(東京大学)
"	酒井 哲也(東京大学)
"	塚本 元(東京大学)
"	野上 和裕(東京大学)
"	土川 信男(東京大学)

1985年度研究会・総会開催される

1985年度の研究会は、10月5日(土)、6日(日)の両日、東京大学において開催された。300名をこえる多数の会員の参加を得て、充実した報告と討論が行われた。プログラムを見れば明らかなように、この研究会は2つの年報企画を共通論題に置き、分科会においては政治学と関連する諸分野を取りあげて、包括的に政治学研究の展開を把えようとする特色ある構成がとられた。また各セッションにおいて、司会役の人からそれぞれの趣旨の説明がなされた。

第一日目の昼食時に開かれた総会では、三谷開催校理事の司会のもと、西川理事長の挨拶、各委員会よりの報告、田中監事より1984年度決算、犬童常務理事より1985年度予算(いずれも前号会報に掲載)の報告がなされた。ついで6月に行われた会員による理事選挙と9月に行われた理事選考委員会の結果にもとづく来期理事候補が理事長より提案され、拍手により承認された。

また二日目の昼に開かれた臨時総会においては、次期理事会での合意にもとづいて松下圭一会員が次期理事長、成澤光会員が常務理事に推され、満場一致で承認された。

86年度研交会会場及び日程の決定

10月5日の理事会において86年度の研究会は、10月4日、5日の両日、京都の龍谷大学で開かれることに決まった。開催校担当理事は、田北亮介理事があたることになっている。

御 意 見

猪口孝会員より以下に掲載するような、会員の皆様には有益な御意見をお寄せ頂きました。

学会の発展と執筆の国際化

猪口孝(東京大学)

学会員になってからもう十年の歳月が流れ、多くの方の御尽力で本学会の活動はみちがえるほど活性化されてきていると思われます。本学会の更なる発展のためにも、執筆の機会を増やすことは重要だと思います。本学会誌の性格上、のせたい時にのせられないことが多いと思います。そこで外国の学術誌にも執筆の機会があることを手短かに紹介させていただけたらと思います。

① International Organization.

国際機構の問題のみならず、広く国際関係、国際政治経済、比較政治経済、比較政治を扱います。広い視野から政治経済学的分析を行ない、かなり理論的な色彩の強い論文がのる学術誌です。アメリカ以外からの論文を強く求めています。

② International Studies Quarterly.

アメリカ国際研究協会(ISA)の学会誌で、学術的で国際政治と比較政治をカバーし、理論や政策も重視しています。アメリカ以外からの参加を強く求めています。

③ International Political Economy Yearbook.

アメリカ国際研究協会の国際政治経済部会刊の学術誌で、広く国際政治経済の諸問題を扱います。

いずれも国際研究ということですが、国際政治だけでなく、比較政治、公共政策などの分野でもそれ以上にひんばんに論文をのせています。いずれも私自身が編集委員の一人となっています。投稿について御質問がありましたらどうぞ御連絡下さい。できる限りのことをします。

〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学東洋文化研究所

猪口 孝 電話 03-812-2111 内 5886

自宅電話 03-818-1686

付記：なお宛先は次の通りです。

① The Editor, International Organization

130 Uris Hall

Cornell University

Ithaca, N. Y. 14853 U. S. A.

② The Editors, International Studies Quarterly

Department of Political Science

Arizona State University

Tempe, Arizona 85287 U. S. A.

③ The Editors, International Political Economy Yearbook

Department of Political Science

745 Spencer W. Kimball Tower,

Provo, Utah 84602 U. S. A.

地域別研究会の紹介

今回は、関西地区の研究会を紹介します。なお、東京を除くその他の地域で現在活動中の研究会についての情報を事務局までお寄せ頂ければ幸いです。

○政治思想研究会

政治思想、理論の研究会で構成員数94名。構成員の所属する大学の当番制で報告者を決め、会場を設営する。

この半年間の報告者及びテーマ

3月23日 「18世紀におけるユートピア意識の変容—ルソーを中心として—」
富沢 克 (同志社大学)

4月27日 「福沢における西欧思想(イギリス、フランスを中心とする)の受容」
安西敏三 (甲南大学)

5月25日 「ロシア自由主義とトクヴィル」
竹中 浩 (大阪大学)

6月29日 「フランス第2帝政期反帝政派の思想と行動—ギゾー、ティエール、トクヴィルを中心に—」

中谷 猛 (立命館大学)

9月30日 「倫理的環境としてのヘーゲル市民社会論」

Z・A・ベルチンスキー

(Oxford 大学)

責任者 山崎時彦(愛知学院大学)

学 会 ニ ュ ー ス

○関西政治史研究会

関西地区の政治史研究者を中心とする研究会。
1976年発足。84年末まで延40回に及ぶ研究会を開催した。報告論題は、日本および外国政治史から現代政治分析などにまでわたる。構成員は約50名。研究会への参加者は15名前後。
1985年は、関西政治思想研究会との例年の合同研究会(12月)だけで終わる予定である。

文章責任者 犬童一男(神戸大学)

○関西行政学研究会

近畿地方の行政学の研究者を中心とした研究会で、より遠方に在住している方及び隣接領域を専門としている方も若干会員として参加している。構成員約40名。

この半年間の報告者及びテーマ

3月16日 「アメリカにおける上級幹部公務員制度(SES)について」

坂本 勝(近畿大学)

4月27日 「昭和43年度予算編成と財政硬直化打開運動の研究」

真淵 勝(大阪大学)

6月15日 「農業政策の政治・行政理論」

橋本信之(関西学院大学)

7月24日 「書評・小島昭著『自治体の予算編成—その市民化と活性化』(学陽書房, 1984)」

早瀬 武(岡山大学)

9月21日 「電算処理に伴うプライバシー保護について」

平松 毅(奈良女子大学)

事務局 橋本信之(関西学院大学)

○政治システム論研究会

実証的政治理論の研究動向のフォローアップ、新しい理論の開発と適用を目的とする。設立は1974年10月。定例月1回開催。年1回3日間程度の合宿研究会を定例開催。構成員数は17人。メンバーは助教授クラスの人が多い。

この半年間の報告者と報告テーマ

大矢吉之「ナチス抬頭の選挙分析」

橋本信之「農地転用政策の実施過程」

後藤田輝雄「ハイテク・ビュロクラシー」

山川雄巳「政治経済連関モデル」

依田 博「派閥と内閣形成」

石田 徹「多元主義理論以後」

足立幸男「現代アメリカの政治哲学者たちの平等観」

若田恭二「国際文化摩擦」

責任者 山川雄巳(関西大学)

○政治思想読書会

関西地域に居住する院生以上の研究者を中心に会員数22名。会員には研修員として研究を続けている人が多く、お互いの研究上の刺激の場を提供する趣旨でこの会を結成した。従ってまだ熟成していない各自の問題などを提示して自由に論議したり、時々の研究上の関心深いテーマを報告したり、その内容も多様である。いずれにしろ、形式張らない研究会なので、どなたでも自由に参加して発表してもらうことにしている。

この半年間の報告者及びテーマ

3月 「マルクスの自然概念について」

服部健二

5月 「現代国家論の新展開—N. プーラツアスの国家論を中心に—」

榎内 隆

6月 「フランス政局における移民問題」

岡村 茂

7月 「平和論のための思想的アプローチ」

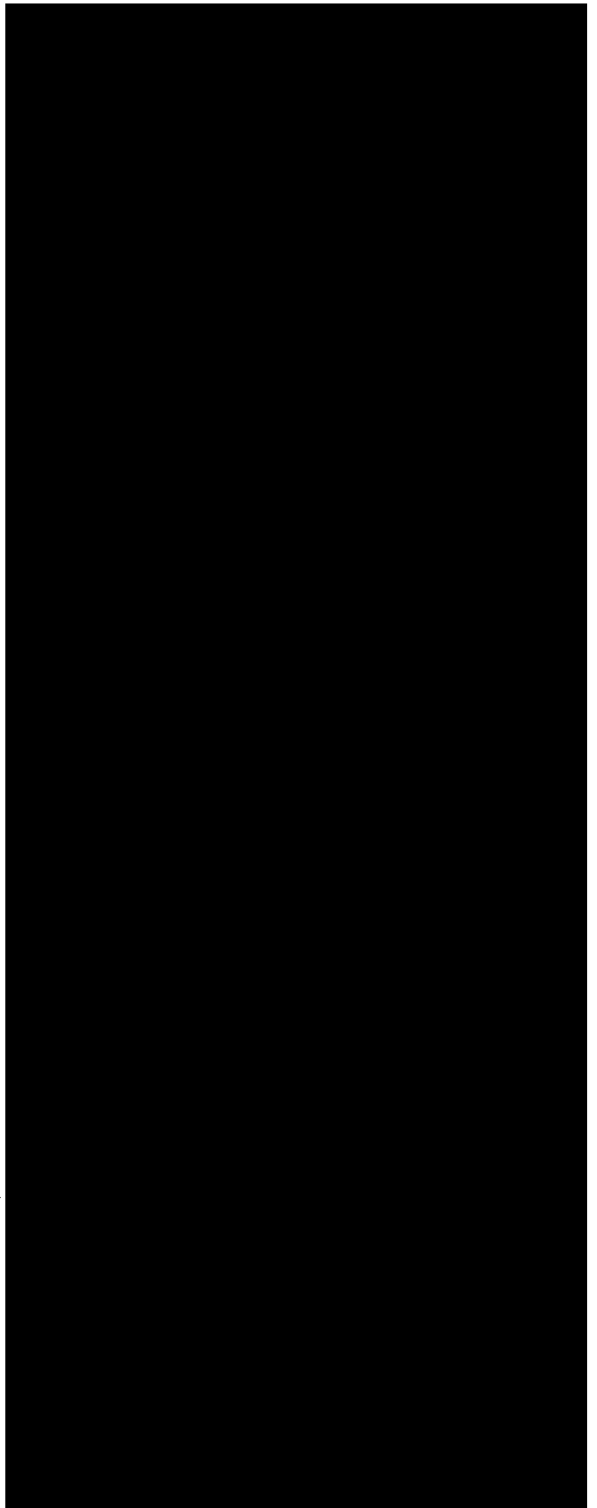
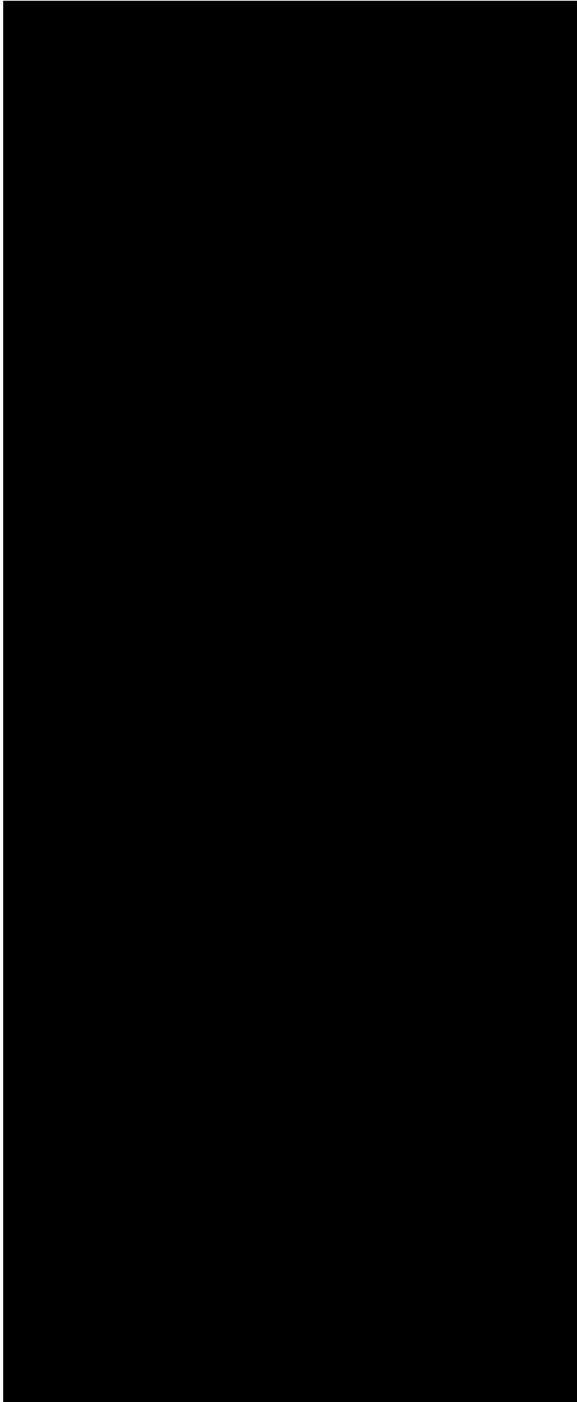
平田忠輔

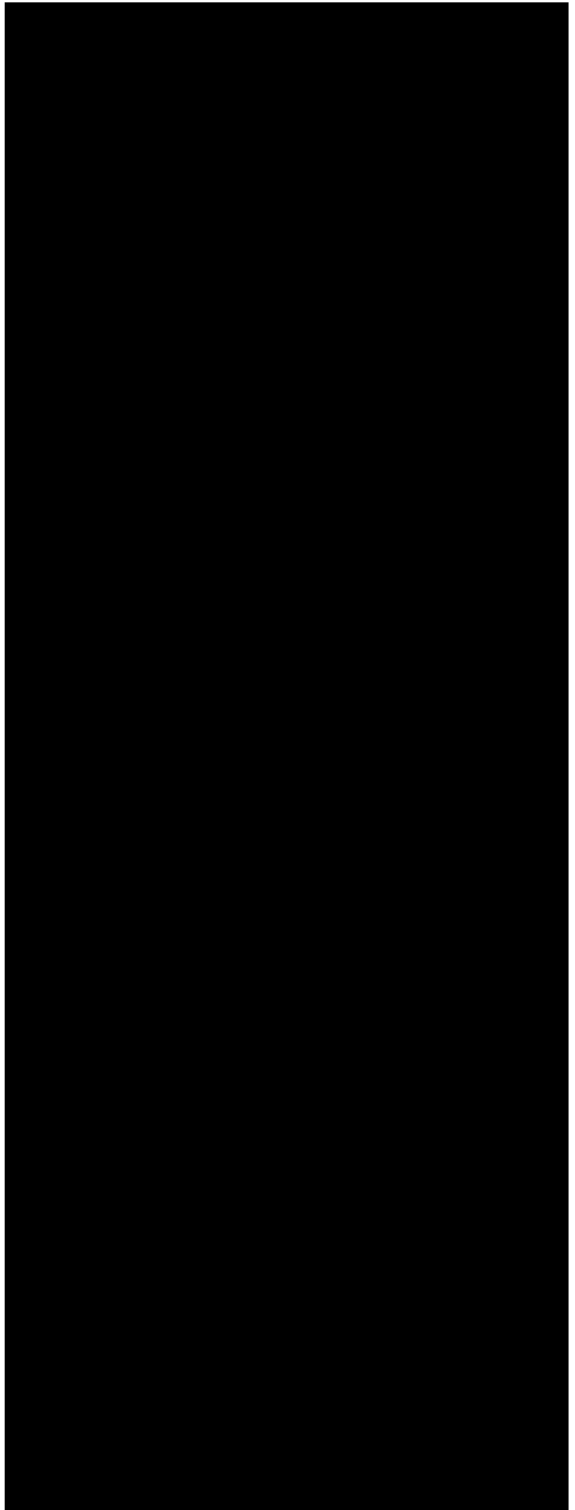
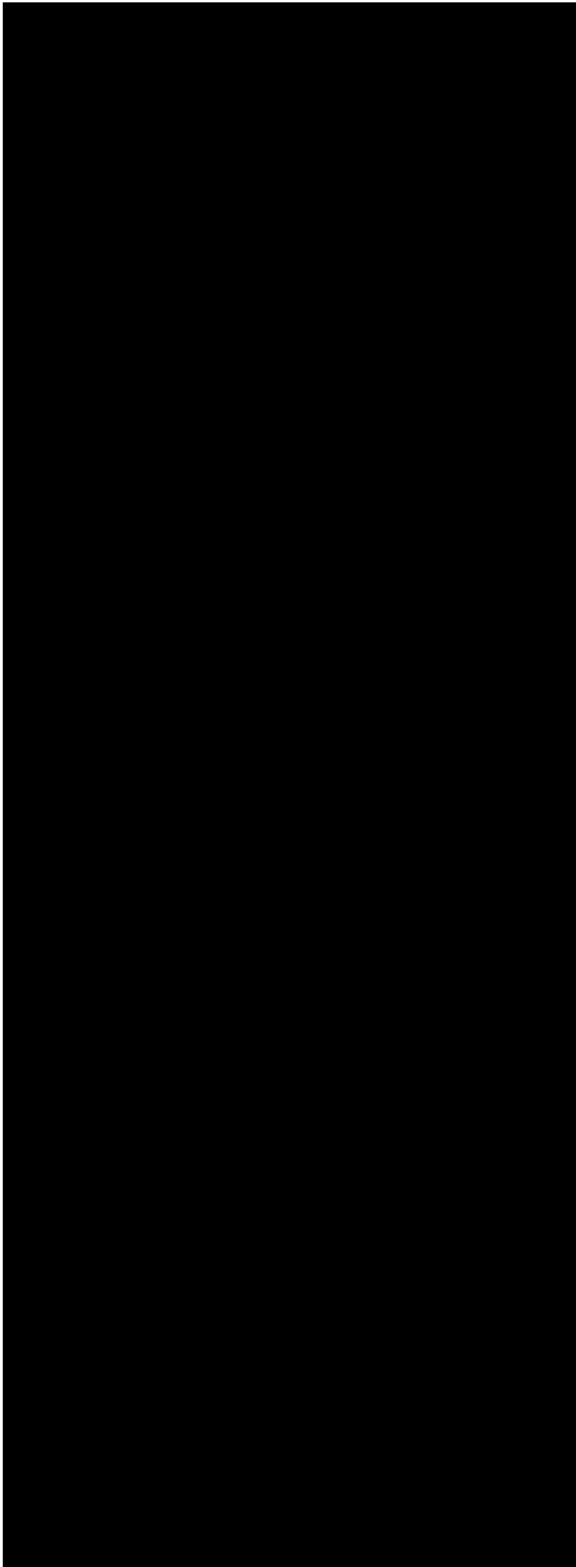
9月 「ソ連の平和論の形成過程」

金子道雄

責任者 中谷 猛(立命館大学)

会 員 の 移 動





1979年の東北大学での研究会の際であったという。

なにぶん公式記録が不備なため、試合経過については各選手の史観により様相を異にしており、取材班も「藪の中」の実相を容易に確認しえなかった。石田雄会員のはたつた姿に志気を昂じた東軍が一方的にリードし、山崎時彦会員の卒いる西軍への政治学的配慮から接戦に持ち込む余裕を示しつつも、19対11でまず東軍がペナントを手にしたと聞く。

しかし、諸戦の勝利に驕った東軍が以後年功序列順のオーダーを採り続けて真剣な体質改善を怠ったのに対し、敗戦から教訓を学んだ西軍は学会会場よりもグラウンドに主要な資源を投入する情熱を示して、80年の北九州大、82年の近畿大（グラウンドは大阪市大）、83年の早稲田大（グラウンドは一橋大）と三連勝を遂げるに至った。

さて今年も東京大学での大会の前日、一橋大学グラウンドにおいて田中浩開催校理事の始球式により第5回戦が開始された。東西両軍とも本年は戦力アップ著しく、特に東軍は北海道にまでスカウト網を張りめぐらして有望新人をリクルートしており、試合は追いつ追われつの水準高い打撃戦となった。最終回、東軍が1点差に追いあげ、なお一死満塁と逆転必至の場面を迎えたが、西軍高橋進投手が球審の極端な低目好きを頼みとった頭脳のピッチングを披露して辛くも9対8で逃げ切った。

なお来年度も竜谷大学において第6回戦が予定されており、会員各位の球史を飾る活躍が期待される。ドラフト会議についてのお問い合わせは、東軍は有賀（東大）または塚田（一橋大）、西軍は小笠原（大市大）の各会員までお願いします。

(M . I .)

事務局から にかえて

日本シリーズ、西軍が4連覇!

政治学の世界にもフィールド・ワークが重視されるに至ったことは周知の通りである。思弁のみを武器とし、ベンより重いものを持ったことのない我が学会員が、バットを手には手にグラウンドに乱入したのは、

1985年12月1日

発行 日本政治学会事務局

犬 童 一 男

〒657 神戸市灘区六甲台町

神戸大学法学部内

TEL (078)881-1212(内線3013)

郵便振替番号 東京0-84250

加入者名 日本政治学会